

# 歩み編さんだより

令和5年5月

Vol.14

『和泊町の歩み』編さん事務局発行

『和泊町の歩み』執筆者

リレーメッセージ

## 沖永良部と北山・琉球国

今帰仁歴史文化センター元館長 なかはらひろてつ 仲原弘哲氏

中世編執筆者（今帰仁とエラブ担当）



沖永良部島に北山や琉球国と関わる歴史や伝承があり、1609年以前の北山や古琉球の姿を今に伝えています。そのことを確認するために島通いをしています。世之主が北山王の次男だという話、北山と関わる地にあるシニグ。島にはシニグドーが多く、字にあり、明治4年までシニグが行われていたといひます。シニグが分布する地域は沖縄本島北部から与論島、そして沖永良部島です。沖縄のシニグの古い形を残していますが、シニグ旗に武士の絵が描かれ薩摩化しています。琉球型とみられるトゥール墓でも、大和年号の大和的な墓塔があります。

三山統一後、八重山や宮古、喜界など遠隔の島々にまで首里王府の支配が及び、制度面の整備も進みます。奄美の島々には首里王府から間切役人やノロへの辞令が発給されています。首里王府が建立した金石文（金属や石などに記された文字資料）や「おもろさうし」（琉球王国尚清王時代の1531年以降に首里王府が編んだ詩集）は平仮名表記です。沖永良部島を謡った「おもろ」も平仮名です。これが薩摩時代になると漢字表記になりました。

1609年以前の地図を写す『正保国絵図』では、奄美の島々や先島は「琉球国之内」とありますが、1611年に奄美の島々が薩摩の支配下となります。それ以後、琉球的な物の禁止や廃止、あるいは没収が行われますが、薩摩化するなかでも残った琉球的なものを肌で感じながら沖永良部島の歴史を紐解いていきます。

## 第4回 編さん事業審議会

令和5年3月17日開催



第4回和泊町の歩み編さん事業審議会が開かれ、令和4年度末までの進捗状況と令和5年度の計画を確認しました。今年度末はいよいよ刊行予定。作業も大詰めを迎えます。

審議会では基礎的資料としての価値がある行政文書の保存管理のあり方、それに携わる人材育成確保など長期的視野に経った意見交換もなされました。

## 徳之島・伊仙両町の町誌編さん室視察



(写真上:伊仙町誌編さん室の古写真スキャン作業の様子) (写真右:徳之島町誌編さん室での聞き取りの様子)

令和5年3月に編さん事務室担当が徳之島町と伊仙町を視察しました。徳之島町は近く町誌を発行予定で、伊仙町は現在編さん作業が進んでいます。



### 『和泊町の歩み』編さん室(事務局)

〒891-9112

大島郡和泊町和泊 591 番地

町立図書館 1階 郷土資料室内

TEL: 0997-92-3690 (役場内線750)

担当: 木場浅葱(学芸員・庶務) 先田光演(執筆編集員)

甲恵子(事務・編集) 市来美穂(編集)



## まーちもーり

歩み編さん事務局では古い写真や古文書等の資料を探しています。提供いただいた資料は複写した上で必ずお返ししますので、お心あたりの方はご一報を!事務局は町立図書館内です。いつでも、お気軽にお立ち寄りください。

